

### ○意見その1

人口減少が重要な課題であることに異論は無い。

人口を減らさないために出産医療の再開は待ったなしと思う。医療を取り巻く環境から、日赤での産科再開は大変困難であることは承知しているが、再開に向けた具体的な取り組みに欠けているように思える。

定住を促進するためにも働く場所の確保も重要課題であるが、企業誘致に頼らず、庄原市内に豊富にある森林資源、農地を活用した新たな産業を育成するプランが必要ではないか。そのための研究を県立大学の協力を得て、市民参加の下で行うべきではないかと考える。

市内の小売店は大資本やコンビニエンスストアの進出で衰退の一途である。歩いて行ける場所に買い物ができるお店があることが交通弱者から求められていると思う。

TPPへの参加は農業に大きなマイナスの影響を与えることが予想される。ブランド化の努力は大きな武器になると思うが、広大な地域に見合った地区ごとの農業振興策を立てることが必要ではないか。集約化が困難な中山間地を抱えている庄原市にとって、規模拡大を求めることには無理があるように思う。

木の駅プロジェクトを広げることが予定されているが、似たような取り組みで北広島町が「せど山再生プロジェクト」を取り組んでいる。この取り組みも研究し、獣害対策も含めて里山の整備を検討してもらいたい。

### ○意見その2

内容が多すぎて個別の意見が難しいが、一般的な事を並べこじつけが多く感じられ抽象的な計画と思う。

### ○意見その3

人口減少も少子高齢化も現実でありこれは変えようがない。その原因としていろいろなことが言われているが、周りの状況を見ると男女の交流の機会があまりにも少なすぎるように感じる。それは、現在の労働環境にあるとともに、社会情勢の変化にあると思う。特に個人情報保護とかプライバシーなどが叫ばれ窮屈な世の中になってきたと感じる。少子化対策には、男女交流の機会が必要だ。昔の青年団活動のようなものの復活が必要と思われる。また社会の活性化を含めて、元気な高齢者も必要であるが、現実には、あまりにも高齢者が前に出て、世代交代がうまくいっていないように思われる。

庄原の産業で農林業は手堅いと思う。永続的産業とするには、家族経営が基本であり、規模拡大には、法人化も必要だと思う。元気な経営体としては、若者の力が必要だ。意欲のある若者を取り込むには魅力のある環境が必要である。産業の保護及び育成に対する財政支出については、一律でなく区分けが必要だと思う。

先の読めない現在であるが、30年後を描いた10年の計画であってほしい。国の赤字財政は膨らむばかり、その原因としてはおのおのの役所の見栄っ張りの表れだ。庄原は財政支出の再検討をし、現在の住民が喜びを感じるののもちろんであるが、将来の住民がより喜びを感じる町であってほしいものだ。

### ○意見その4

・まず、住民1人当たりの建物延床面積を県内平均3.90（≒4.00）～類似規模自治体4.97（≒5.00）くらいを目標にしないといけないと思います。

それを可能にする方法は、人口を増やすこと。特に若者を増やすこと→結婚により出生率の向上→人口増。

そしてその前にやらないといけないこと、「企業誘致などにより、もっと若者にとって魅力のある働く場をふやすこと」だと思います。今居る若者も出さない・出ていかない、庄原市にすること。

言うより簡単でないことはわかりますが、待たなしで高齢化率が増加傾向にある以上「庄原市の若返り」が1日でも早く可能となるよう、施策・実行が必要です。1・2年で成果の出るものではないのでできるだけ早い実行が必要。

そうすることが、前述のこと以外の特に予算面で地域福祉や空き家対策などにも有効だと思います。

高齢者を支える若者の負担を減らす（多人数で支えることができる）庄原市にすべきだと思います。

・インフラなどについては、少し前になりますがTVの特集でやっていました。1市で難しい内容にもよるかもしれませんが、同様に問題を抱える他の市町と合同で対処するという内容だったと思います。

（先立つものを確保しないとイケないのならなにか秘策が必要だと思います。施工の方法も検討が必要でしょう。決まった事業費から削減できたとしてもわずかだと思いますので、事業自体の要否について一層の検討が必要になると思います。）

他市と合同で、そんなばかなと思える不可能を可能にできるような庄原市にならないといけないと思います。

・意識改革・・・この文字が気になりました。今頃でなく、合併時点のころききたかった四字熟語です。